

概要報告資料 熊谷市名勝「星溪園」企画展

「2つの屏風から見える文化史」

かわひがしへきごとう
俳人・河東碧梧桐の交流と漢詩人・国府犀東の影響

こくぶさいとう
漢詩人・国府犀東の影響



熊谷市名勝「星溪園」積翠閣ギャラリーにおいて、俳人・河東碧梧桐の揮毫俳句と、漢詩人・国府犀東の揮毫漢詩を含む2つの屏風の特別公開。

概要

俳人・河東碧梧桐の俳句短冊や画家・富田溪仙の絵画などを含む屏風（六曲一双屏風 H95×W265cm）及び、漢詩人・国府犀東の漢詩や出雲大社神職・北島齊孝の書、画家・棚田暁山の絵画などを含む屏風（六曲一双屏風 H137×W280cm）、以上熊谷に伝来した2点の作品を公開し、明治時代から昭和時代にかけての文化人の交流と影響関係を考える



とき：令和2年3月1日（日）～4月26日（日）

午前9時～午後5時（休園日：毎週月曜日）

ところ：星溪園積翠閣ギャラリー **入場無料**

主催：熊谷市教育委員会 協力：熊谷市文化遺産研究会

問合せ：江南文化財センター 048-536-5062

主要作品筆者解説

国府犀東（こくぶ さいとう）（1873-1950）

戦前日本の記者、官僚、漢詩人。本名は種徳。石川県金沢市出身。新潟、台湾、東京で新聞記者を務めた後、内閣、宮内省、文部省等で地方改良運動、近代社格制度、詔勅起草、文化財行政等に関わった。また慶應義塾大学予科、旧制東京高等学校で漢文を講義した。『犀東文集』『龍吹鶴語』等の著作がある。号は金沢西部を流れる犀川の東畔に生まれたことに由来する。対岸で生まれた室生犀星はこれを受けて犀西の意で犀星と名乗ったといわれている。

北島齊孝（齊孝、きたじまなりのり）（1863-1918）

日本の神職、政治家、華族。出雲大社北島国造家 76 代、貴族院男爵議員。出雲国出雲郡（現島根県出雲市大社町）で北島国造家 75 代・北島脩孝の長男として生まれる。父の死去に伴い 1893 年 4 月 7 日、男爵を襲爵した。1882 年、出雲大社権宮司に就任。同禰宜、大教正、神道出雲教（現出雲教）大教主を務めた。1908 年 7 月、貴族院男爵議員補欠選挙で当選し、公正会に所属して活動し、死去するまで在任した。

棚田暁山（たなだぎょうざん）（1878-1959）

明治 11 年、岡山県津山市西北条郡津山町元魚町生まれ。名は梅吉。別号に真楯（またて）がある。少年期から古画、有識故事への関心が深く、上京して小堀鞆音（こぼりともと）に入門し、歴史資料や古美術品の収集を手伝いながら歴史画を学び、日本絵画協会展などに出品。安井鞆彦らが結成した「紅児会」や鞆音の「歴史風俗画会」などでも研鑽を積んだ。安田鞆彦とともに紅児会の活動に加わる一方、同門の仲間の鞆音門下生で組織した「革丙会」の幹事となり、師の没後はその顕彰につとめた。戦時中は津山に疎開したが、戦後は再び上京して女子校の図画習字の教師をつとめた。昭和 34 年、82 歳で死去した。

河東碧梧桐（かわひがしへきごとう）（1873-1937）

明治 6 年（1873）2 月 26 日、愛媛県松山市千舟町（旧・温泉郡千船町）に朱子学派の学者で、藩学明教館の教授である父・河東坤（したかう）（号・静溪）の五男として生まれる。本名は秉五郎。俳人・随筆家・書家・登山家。伊予尋常中学校（現・愛媛県立松山東高等学校）、第三高等学校入学の後、第二高等学校（現・東北大学）中退。中学時代から正岡子規に兄事、高浜虚子とともに子規門の双璧をなした。

子規没後、新聞「日本」の俳句欄の選者を子規より継承した。明治 39 年に全国俳句行脚を開始、新傾向俳句運動をすすめる。中塚一碧楼らと大正 4 年『海紅』を創刊、自由律俳句を示す。『八年間』『三千里』『碧梧桐句集』などがある。大正 12 年『碧』、14 年『三昧』を創刊。昭和 8 年（1933）還暦祝いの席上で俳壇からの隠退を宣言した後、昭和 12 年（1937）2 月 1 日、63 歳で東京にて死去。

国府 犀東（こくぶ さいとう、明治 6 年（1873 年）2 月 - 昭和 25 年（1950 年）2 月 27 日）は戦前日本の記者、官僚、漢詩人。本名は種徳。石川県金沢市出身。新潟、台湾、東京で新聞記者を務めた後、内閣、宮内省、文部省等で地方改良運動、近代社格制度、詔勅起草、文化財行政等に関わった。また慶應義塾大学予科、旧制東京高等学校で漢文を講義した。『犀東文集』『龍吹鶴語』等著作がある。号は金沢西部を流れる犀川の東畔に生まれたことに由来する。対岸で生まれた室生犀星はこれを受けて犀西の意で犀星と名乗った。

富田溪仙（とみたけいせん）（1879-1936）

明治 12 年 12 月 9 日、福岡県博多に生まれる。本名は鎮五郎（しげごろう）。字は隆鎮。別号に雪仙、溪山人など。明治から昭和初期に活躍した日本画家。初め狩野派、四条派に学んだが、それに飽きたらず、仏画、禅画、南画、更には西洋の表現主義を取り入れ、デフォルメの効いた自在で奔放な作風を開いた。富田家はかつて福岡藩の御用を務め、溪仙が生まれた頃は麴屋町（現在の博多区川端）で素麺製造業を営んでいた。福岡藩御用絵師だった衣笠守正（探谷）に狩野派を学んだ後、京都に出て四条派の都路華香に師事。後に仙厓義梵、富岡鉄斎に傾倒。各地を旅し幅広い研鑽を積む。横山大観の薫陶を受け、大正 4 年日本美術院同人。昭和 10 年帝国美術院会員となる。京都で死去。俳人河東碧梧桐や、駐日フランス大使であった詩人のポール・クロデルとの交遊が知られている。